

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ブランシエスタ千早RJR	階数	地上15F
建設地	福岡市東区千早5丁目2342番2	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	300人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年7月7日
敷地面積	1,610㎡	作成者	宗信 宏隆
建築面積	743㎡	確認日	
延床面積	8,609㎡	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 184 (kg-CO₂/年・m²)
②建築物の取組み 46 (kg-CO₂/年・m²)
③上記+②以外の 89%
④上記+ 89%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性や景観に配慮した建物を目指し、室内環境・室外環境への配慮を行う事で、地球環境保全に貢献しています。 道路に面した部分に植栽帯を設け、緑豊かな景観に配慮しました。 	0
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 階床遮音性能に配慮しました。また、ホルムアルデヒドの発散を抑えた建材を使用し、安全で快適な居室空間に努めました。 内装材等にはF☆☆☆☆を採用しました。 <h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> LED照明などの高効率設備機器を採用しました。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 段差や廊下幅などバリアフリーに配慮し、高齢者や障がい者の方にも安心で安全な建物を目指しました。 福岡市福祉のまちづくり条例の整備基準をクリアしました。 <h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> 屋外駐車場の一部を住棟内に取込み、屋外アスファルト面を縮小するなど、ヒートアイランド現象の緩和を図りました。 1階の約半分を駐車場として計画しました。
<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 敷地は大通りからも見えるため、周囲の街並みに配慮した景観計画としました。 道路に面した部分に植栽帯を設け、緑豊かな景観に配慮しました。 <h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 光害(漏れ光など)によって周囲に悪影響を与えないよう、外灯などの照明器具は設置位置や高さに配慮しました。 外灯の点灯・消灯はタイムスケジュール制御としています。 	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される